

1. 題材について

(1) <生徒の実態>

本学級の生徒は担任から見て、真面目で素直な生徒が多い。教科の授業では積極的な挙手発言ができる生徒も多いが、道徳や話し合い活動の時間では積極的に意見を発表できる生徒は少ない。自分たちが現在学んでいることや、経験している様々なことが、大人になったときに役立つということは少なからず感じている。しかし、自分の将来の職業について真剣に考えたり、働く目的について考えたりということには至っていない。そこで、進路学習の初期段階として、働く目的の多様な面について考えさせ、働くことそのものについてや、職業への興味・関心を高めさせたい。そして、自主的・自発的に進路を選択できる能力を養ったり、勤労観・職業観の形成に役立てたりしていきたい。

(2) <題材設定の理由>

本題材は学級活動(3)の「イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」に関わるものである。生徒たちの多くは、「いい高校」に行きたいと思っている。しかし、最終的な目標が志望校合格であり、その後の進路については展望がなかったり、学力が高い学校が「いい高校」と判断して入学したが、自分の希望する進路に適していなかったりということは、よく耳にする。集団や社会の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を育て、学ぶことや働くことの意義についての学習を1学年で行い、2学年の職場体験、3年生の進路選択とつながるよう、計画的に進路学習を行い、自己を生かせる進路選択が主体的にできるようにしたいと思い、本題材を設定した。

2. 事前の活動

目指す生徒の姿と評価方法

- ・「職業や進路」に関わるこれまでの自分の取組について振り返っている。
  - ・自分の課題について、真剣に受け止めて考え、家庭学習の取組をよりよいものにしようと意欲を高めている。
- (アンケート調査)  
【関心・意欲・態度】

生徒の活動(・)及び指導上の留意点(○)

- ・当日の題材について知る。
- ・題材に関わる課題を確認し、一人一人がアンケート調査に取り組む。
- ・題材に関わる自分自身の課題や問題点について、考えておく。
- 題材について問題意識を高めておくため事前に周知しておく。
- 個々の生徒が解決、改善すべき問題であることを伝え、問題意識の共有化を図る
- 生徒の問題状況をアンケート調査で確認しておき、資料をまとめる。
- 保護者にもアンケートを依頼する。

事前アンケート  
職業や進路について

【選択式】

1	将来の夢がある
2	将来就きたい職業がある
3	行きたい高校がある
4	いい高校に行きたい
5	5年後の自分について考えている
6	10年後、20年後の自分について考えている
7	目標を持って学習に取り組んでいる
8	人がなぜ学ぶのか、その理由を考えたことがある
9	人がなぜ働くのか、その理由を考えたことがある
10	将来の生き方について考えている
11	これからの人生の見通しがたっている
12	夢で充実した人生を送りたい
13	将来のことや進路のことについて知りたい(学びたい)
14	将来のことについて、親と話す
15	将来のことについて、友達と話す
16	自分の経験は、大人になったときに役立つ
17	職業や働くことに対して興味・関心がある(知りたい)
18	職業や働くことについては、少し知識がある

【自由記述】

- 「いい高校」とはどういう高校か。
- 自分が知っている職業を、思いつく限り書いてください。

※保護者アンケートも実施

3. 本時の活動

目指す生徒の姿

- ・自分なりの働く目的・意義を考えることにより、働くことや職業への興味・関心を高める。
  - ・働くことの多様性や個々の価値観を理解することにより、働くことの重要性や大切さを理解する。
- (発言・観察) 【関心・意欲・態度】  
(ワークシート・観察) 【知識・理解】

<指導過程>

1. <課題の把握>

アンケートなどから実態を把握して、課題を自分事と捉えることができるようにする。

- ・アンケート結果を確認する。
- ・学級の数値や保護者の結果から、働くことに対する意識が低いことに気づく。

2. <原因の追求・改善の必要性>

課題の原因を明らかにして改善の必要性を実感することができるようにする。

- ・職業や進路に対する考えを発表する。
- ・「働く理由」を各自ランキング形式で考える。

3. <解決方法等の話し合い>

集団思考を通して多くの視点で解決方法を探ることができるようにする。

- ・グループ内で「働く理由」について発表しあい、多様な価値観に触れる。

4. <個人目標の意思決定>

実現可能であり、自己評価できる具体的な実践や目標を立てることができるようにする。

- ・改めて、自分は何のために働きたいのかを考える。
- ・「夢の実現」に向けて、どのような生活を送りたいかを考える。

4. 事後の活動

目指す生徒の姿と評価方法

- ・生徒自身が意思決定したことや工夫点を確実に実践している。
  - ・働く大切さを念頭に置きながら、進路学習に積極的に取り組んでいる。
- (観察)  
【思考・判断・実践】

生徒の活動(・)及び指導上の留意点(○)

- ・各自、毎日の様子を生活記録ノートに記録する。
- ・進路学習において、積極的に学習に取り組み、職業インタビューに向けて準備を進めている。
- 生徒の生活を確認し、修正等が必要であれば指導する。
- 将来に向けて、自身の取組をどのようにしていくか、丁寧に振り返りをさせる。
- 学級通信を活用して生徒を賞賛するとともに活動の様子について、保護者に知らせる。
- 頑張りを受けて全体に広めたり、生徒同士励まし合ったりする場を設けて、継続化に向けて意欲の向上を図る。

<よりよい意思決定に向けて>

- ・問題の原因及び改善の必要性を十分に踏まえた上で、「見つける」段階で様々な視点で考えを引き出す。
- (思考の拡散)

- ・集団思考で出された考えを分類して、実現可能である個人目標を立てる際の参考とするよう助言し、十分な時間を確保する。

5 / 27

夢の実現を目指して～働くって何だろう?～

人はなぜ働くのだろうか?

- ・お金を稼ぐ
- ・生きるため
- ・困らないようにするため

順位付けをしてみてください・・・

- ・自分だけでなく、家族のためにも
- ・世の中の役に立ちたい
- ・できることが増えて、楽しくなる。
- ・充実した人生になるのでは?

夢に向かって・・・

- ・日々の授業を頑張る
- ・時間を守る
- ・良い高校に行く
- ・職業についての知識を高める

「良い人生を送りたい」  
「夢がある」  
「働くことに興味がある」

↓

「○○年後は・・・」  
「人生の見通し・・・」  
「働くことの知識は・・・」

「人がなぜ働くのかその理由を考えたことがある」  
「これからの人生の見通しが立っている」

職業や働くことについて興味関心がある